

大田区職員9条の会ニュース

第99号 2015年6月29日 編集 大田区職員9条の会事務局
大田区職員労働組合気付

「安保関連法案」は憲法違反!?

—こんな大事なことを「政府」だけに決めさせていいの?—

憲ちゃん：今、国会で安保関連法案が「憲法違反」だとして問題になっているけど、何が問題なの？

法ちゃん：憲法第98条には「この憲法は、国の最高法規であって、その条規に反する法律、命令、詔勅及び国務に関するその他の行為の全部又は一部は、その効力を有しない。」となっているのよ。つまり、昨年7月に閣議決定された「集団的自衛権容認」や今審議されている「安保関連法案」が憲法違反ということになれば「効力を有しない」ことになるのよ。

憲ちゃん：へー。憲法違反ってそういうことだったんだ。でも安倍首相たちは「憲法違反ではない」って言っているよ。

法ちゃん：「集団的自衛権」というのは、密接な関係のある他国が攻撃を受けた時に直接関与していない国も集団として反撃を行う権利のことだけれども、これまで歴代の内閣は日本国憲法9条により行使することができないと国民に言ってきたのよ。

憲ちゃん：でも、安倍政権は、「密接な関係がある他国が攻撃されたことにより我が国の存立を脅かす事態になったときには『集団的自衛権』が行使できる」と言っているよ。砂川事件の最高裁判決や「92年の政府見解」も認めていると言っているよ。

法ちゃん：「砂川事件」の判決も「92年の政府見解」も「日本への直接的な武力攻撃に対して必要最低限の自衛の処置を認める」と言っているだけで、集団的自衛権について述べているわけではないのよ。「『他国が攻撃されて日本の存立を脅かす事態』とはどのような事態か」と問われて安倍首相は「私たちが国際状況を見て判断する」（6月17日）と答えているわ。つまり、時の政権に判断をまかせろと白紙委任をするようにと言っているのよ。

憲ちゃん：国際情勢が変化してきているし、近隣の国がいろいろ動いているよね。そういう動きを止める必要があるんじゃないの。

法ちゃん：だからと言って武力に頼ることになれば近隣諸国の警戒感を高めてさらに軍拡競争が進むことになると思う。昔「東洋平和のためなれば」と戦争が始められたことを忘れてはいけないのよ。

憲ちゃん：ふーん。でも安倍首相はアメリカで「この夏までに法案を通します」と約束してきたよ。そのうえ、「文民統制」を弱める自衛隊法の改正や「武器輸出」をするための「防衛設備庁」の新設も決まったし…なんか「どうしても『安保関連法案』を決めたいって感じだよ。

法ちゃん：そうね。数の力で「そこのけそこのけ」と動いている。私たちが政府の強引なやり方に引っ張られてなんとなくついていくということになれば、戦前の「戦争に向かっていった空気に呑み込まれてしまったという苦い思いは二度としてはいけない」という先人の教訓を無にしてしまうことになる。だから戦争を体験した世代の自民党の人たちでさえ今の動きに反対や懸念を表明しているのだと思う。

皆さんはどう思われますか？ 今の政府の動きをしっかりと捉えて将来に禍根を残さないよう行動していきましょう。

6月4日

ドキュメンタリー映画

「標的の村」上映会に250人!

6月4日、アプリコ小ホールにおいてドキュメンタリー映画「標的の村」の上映会が開催(主催:「標的の村」 in おおた上映実行委員会)されました。昼夜2回の上映ともほぼ満席となり、合わせて約250人が参加、大田区職労からは約20人が参加しました。映画では、私たち本土に住む者には決して報道されることのない沖縄の人々の基地反対の闘いと、それをあらゆる手段で弾圧する

「国家」の姿が沖縄の人々自身の目線で描かれています。ホールの薄闇の中でスクリーンから目を離すことができないまま涙を流す参加者も少なくありませんでした。

この上映会に参加した区職労組合員から感想が寄せられましたので紹介します。

2012年9月29日、オスプレイの強硬配備前夜。台風17号の暴風の中、人々はアメリカ軍普天間基地ゲート前に身を投げ出し、車を並べ、22時間にわたってこれを完全封鎖したのだ。この前代未聞の出来事の一部始終を地元テレビ局・琉球朝日放送の報道クルーたちが記録していた。真っ先に座り込んだのは、あの沖縄戦や米軍統治下の苦しみを知る老人たちだった。強制排除に乗り出した警察との激しい衝突。闘いの最中に響く、歌。駆け付けたジャーナリストさえもが排除されていく。そんな日本人同士の争いを見下ろす若い米兵たち……。

本作があぶりだそうとするのは、さらにその向こうにいる何者かだ。復帰後40年経ってなお切りひろげられる沖縄の傷。沖縄の人々は一体誰と戦っているのか。

—「標的の村」公式HPの解説から一部を抜粋—

映画が始まり、「沖縄の名前の人ばかりだなあ」「ああ、みんな沖縄の顔だ」となんだか嬉しくなったのも束の間、すぐに胸がえぐられるような気持ちになりました。報道では政府の都合のいい事ばかり流れていて、オスプレイの反対で集まった人達を力づくでのけようとする映像、故郷を思い泣きながら歌を歌う若い女性の姿等、本当に国民に伝えなければならない事は一切報道されていない現実がそこにはありました。沖縄県民が犠牲になり、その事に対し「負担を背負ってもらふことになる」の一言で済ませようとする国を誰が信じるのでしょうか。弱い立場の国民に寄り添うのが本来の国のあり方ではないのでしょうか。私の祖父と祖母も沖縄戦を体験しています。二度と戦争をしてはいけないと当事者が訴えるなか、それを平気で無視し続ける国の暴走は、これから国を背負っていく若者こそが止めなければならないと感じました。沖縄と共に声をあげていく事が、私達のすべきことだと思います。

私はこの映画で感じた事を胸に、今月開かれる沖縄全戦没者追悼式に参加する予定です。

(みなと)

戦後70年沖縄全戦没者追悼式は、「慰霊の日」の6月23日に糸満市摩文仁の平和祈念公園で沖縄県と沖縄県議会の主催で開催され、およそ5400人が参列しました。翁長知事は平和宣言の中で辺野古への新基地建設中止を訴えました。

第20回東京 反核平和マラソン 参加者募集

開催日 2015年7月11日(土)

参加費 2,000円(組合負担)

【お申込み・お問い合わせ】

組合事務所

南コース(10時スタート)

大田区役所前

↓
品川区役所前

↓
目黒区役所前

↓
宮下公園

主催: 第20回東京反核平和マラソン実行委員会

核のない安全で平和な世界への想いは万国共通。国籍問わず、みんなで反核平和を訴えましょう♪